



第1学年 「一次方程式」 大野 あい子 教諭

これまで検算を行う程度だった解の吟味について、「方程式をつくるときに式では表現されていない条件(数値)」を用いて吟味することの重要性を生徒に感じさせ、「解決過程を振り返り、結果の妥当性を検討しようとする態度」の育成をねらった提案でした。

「方程式を学ぶことの価値」について参加者で共有した後に、模擬授業についての協議を行いました。「問題場面を生徒に捉えさせることが十分でないのではないだろうか」、「解の吟味は単元の最後になってからやることなのだろうか。単元末においては生徒自らが解が適切かどうかを振り返ることが必要ではないだろうか」等の意見が出されました。



日常事象と教師がしっかりと向き合う!

①日常の事象とかけ離れた場面設定のもとで問題解決をしようとしても、それは数学が日常事象の問題解決に使われたということにはならない。実際にあった状況等を踏まえた問題場面をつくる必要があること、②数学的活動を通して問題解決していくプロセスのなかで、知識・技能として身に付けることと知識・技能を活用して解決することを相互に関係させ合いながら育てていくことができるよう、能力ベースのカリキュラムについて教科会で考えていくこと等のご指導をいただきました。

齊藤一弥
学力向上総括
専門官による
指導板書



授業者の声

1次方程式を使って身の回りの問題を解決するときの解の吟味について焦点を絞り授業を考えていましたが、単元の最後の活用の時間に初めて取り上げるのではないかと考え直しました。また、基本的な知識を理解した後に活用するという点についても教科会で見直していこうと思います。

参会者の声

方程式を学ぶ価値や他の単元とのつながりを大切に教材研究の必要性を感じました。本年度より勤務校において一人で数学を担当しています。同じ数学を担当する他校の先生方との協議や齊藤先生のお話からたくさん学ぶことができました。

【浦ノ内中 西森光教諭】

次回：中学校数学授業
改善研究協議会
10月4日(木)13:00~
(受付:12:45~)です!

明日からの学びを
ともに描きましょう。
ぜひご参加ください!

